豊田市障がい者総合支援センター

平成26年度

結

平成26年度

活動報告・研究報告「結」

平成28年 3月発行

豊田市障がい者総合支援センター

http://www.fukushijigyodan.toyota.aichi.jp/

社会福祉法人　豊田市福祉事業団

豊田市障がい者総合支援センター「結　平成26年度」を作成いたしました。

平成17年度から、総合支援センターの各施設がその年度に行った取組みの一つを取り上げ、紹介させていただきました「紀要」を、24年度版からは手に取っていただきやすい形に一新いたしました。また、豊田市福祉事業団のホームページにも掲載していく予定です。多くの方にご覧いただき、少しでも皆様のお役に立つことができれば幸いです。

私たちは誰かとつながって生きています。

ひとりで悲しんでいるとき
　誰かに話を聞いてもらえたら、少し楽になるかもしれない
うれしいことがあったとき
　誰かに「よかったね」といってもらえたら、もっとうれしくなるかもしれない
ひとりではできないことも
　誰かと力を合わせれば、できるかもしれない

利用者の方と地域の方々が結ばれることで、お互いがハッピーになれたらいいなと考えながら、私たちは毎日の支援を行っています。
私たちの支援を地域の方々に少しでも知ってもらいたい。
その思いを「結（ゆい）」という言葉にのせて発行いたします。

（表紙の題字は、暖　松井隆史さん）

豊田市障がい者総合支援センター

豊田市障がい者総合支援センターとは、障がいのある方の自立及び社会参加を支援し、豊かな地域生活を図るため、豊田市が設置した施設です。「障がい者就労･生活支援センター」「けやきワークス」「第二ひまわり」「暖」の４部門で構成しています。

豊田市から指定管理者の指定を受けた豊田市福祉事業団が、障がい者総合支援法に規定する障がい福祉サービス事業と、豊田市から委託された就労生活支援事業などを行っています。

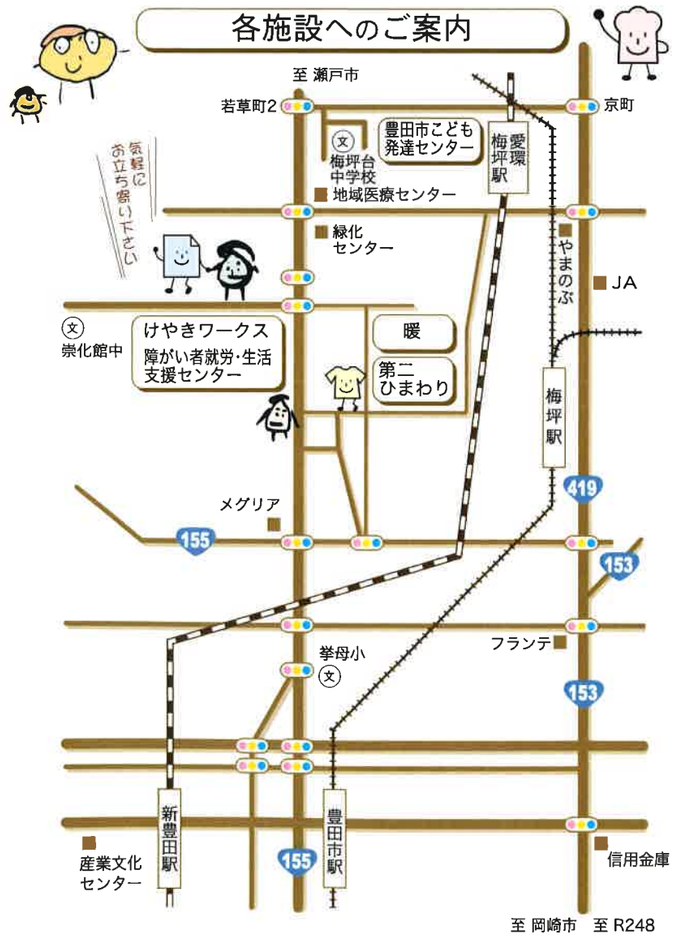
目 次

けやきワークス …… 1
　就労移行支援　～ 一般就労への取り組み ～

暖 …… 3
　リズム活動　　～ 繰り返すことでの変化 ～

第二ひまわり …… 5
　環境美化活動

障がい者就労・生活支援センター …… 7
　障がい者福祉従事者研修



就労移行支援
～一般就労への取り組み～

けやきワークスでは、就労移行支援と就労継続支援Ｂ型の２つの事業を行っています。就労移行支援は、一般企業に就職する為に必要な知識・能力を養い、一般就労を目的に訓練を行う事業です。就労継続支援Ｂ型は一般就労が困難な方に、生産活動の提供、能力向上に向けた訓練を行う事業です。今回は就労移行支援の取り組みを紹介します。

就労移行支援の利用期間は２年間です。今まで一般企業で働いた経験の無い利用者にとって、２年間で様々な知識・能力を身に付け、一般就労するのはとても大変な道のりです。少しずつレベルアップをしていき、本人の目標を達成出来るよう支援をしています。

１　就労移行支援プログラム

初めに行う支援は意識改革です。社会に出ると様々なルールがあります。ルールを学び、仕事をして工賃をもらう。社会人としての、仕事に対する責任感を日々の仕事の中で身に付けていきます。

その後、定期的に就労移行支援プログラムを行い、社会性を身に付けます。挨拶の仕方、報告・連絡・相談の必要性、身だしなみの改善など、一般就労する為だけではなく、社会人として必要な知識も講義で伝えていきます。このプログラムの講師は支援員だけではなく、外部の専門講師を招き、より実践的な講義を行っています。

就労移行支援プログラムの様子

２　職場体験実習

日々の仕事や就労移行支援プログラムで社会性を身に付けたら、次は実践です。けやきワークス近辺の企業や、市役所が斡旋している職場で職場体験実習を行います。

知らない場所で仕事を行う事で、自分の長所・短所を確認したり、自分に合う職種を探していきます。また、外部で仕事を行う体験は様々な刺激を受け、本人の就労意欲に繋がります。体験には支援員も足を運び、利用者の職能評価をしていきます。

職場体験実習の様子

3　企業実習

「けやきワークスで仕事を行う」「就労移行支援プログラムで社会性を身に付ける」「職場体験実習で経験を積む」その訓練を何度も繰り返し、本人のスキルが上がってきたら一般就労に向けた企業実習を行います。

実際に雇用を考えている企業を探し、実習のお願いをします。けやきワークスと日々繋がりのある企業、ハローワークや就労・生活支援センターから紹介して頂いた企業などに声を掛け、実習に繋げます。

実習先が決まったら、実習日までけやきワークスで訓練を行います。通勤の練習や、実際に行う仕事の練習、持ち物や実習中に気を付けるルールの確認を行います。出来る限り不安を取り除き、自信を持って実習に臨んでもらいます。

実習を行い、企業側が求める人材と本人のやりたい仕事がマッチすれば雇用開始となります。

通勤練習の様子
（職員は後ろから付いていきます）

企業実習の様子

4　就労移行支援を行ってみて

一般企業で働く目的として、多くの利用者が「給料を貰う為」という理由を挙げます。しかし、実際に一般企業で働くと給料を貰うだけではなく、様々な社会経験を積む事が出来ます。実際に一般企業で働いた経験のある利用者を見ると、仕事に対する意識が高く、また、周囲へ気配りの出来る方が多いです。社会に出て様々な経験を通して、家庭や事業所では得る事の出来ない様々な知識を学べるのだと思います。

一般企業に就職する道のりは簡単ではありません。本人のやる気を引き出し、目標を持って訓練に励む。また、本人のやりたい仕事や適した仕事を探す。支援員が利用者と一緒に考え、訓練を行い「就職への道」が開けていきます。一般就労する事だけが大切ではありませんが、これからの生活の為に多くの社会経験を積んでもらいたいと考えています。たくさんの経験を積み、本人が望む生活を叶える為に、これからも利用者と一緒に目標に向かって頑張っていきます。

リズム活動　～繰り返すことでの変化～

暖は重症心身障がいの方の通所施設です。開設当時から、利用者の方の好きな曲を歌ったり演奏したりして音楽活動を行っています。その中でどのようにしたら音楽をより楽しめるのかと日々考え、活動を展開してきました。

リズム活動の流れ

細かい内容はグループごとで異なりますが、リズム活動の大まかな流れは下記のとおりです。利用者の方が見通しを持って活動できるように、毎回同じ流れで行っています。

ⅰ）活動への意識づけと意欲の増進

活動の始めに、職員がオルガンで『はじめの曲』を演奏します。

ⅱ）体や気持ちの準備体操

『準備体操の曲』に合わせて、職員が利用者の方の顔をマッサージしたり、室内を歩いたりします。身体をほぐし、表情や動きを出しやすくします。

ⅲ）楽器演奏

利用者の方がそれぞれ得意な動きを活かして音を奏でます。自信を持って、意欲的に楽しめるよう支援しています。

ⅳ）クールダウン

利用者の方のお気に入りの曲や季節の曲などを職員がオルガン演奏し、リズム活動で高揚した気持ちを落ち着かせます。

リズム活動を通した変化

リズム活動を繰り返すうちに、今まで音楽にあまり興味のなかった利用者の方が楽器に興味を持ち始めたり、音を出すことに喜びを感じたりと、様々な変化を感じるようになりました。

写真①　Ａさん車椅子乗車姿勢

（１）音楽が大好きなＡさんの場合

Ａさんは、好きな曲を聴くと笑顔になります。音楽鑑賞以外にも、Ａさんが音楽を楽しめる方法を考えました。

＜楽器選び＞

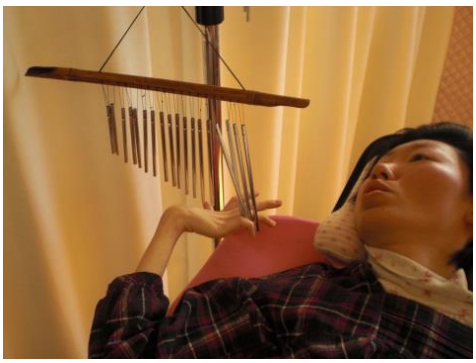
Ａさん（写真①）は手を開いたり閉じたり、指を動かすことができます。そこで、ウインドチャイム（写真②）という金属の棒を揺らして鳴らす楽器に挑戦しました。

写真②　ウインドチャイム

＜繰り返すことでの変化＞

楽器を目で捉えやすいように、職員はウインドチャイムをＡさんの顔の前で支えました。何度かＡさんの目の前で鳴らしたり、一緒に触れてみたりを繰り返すうちに、Ａさんはウインドチャイムに興味を持ち、チャイムの先を指で触って音を鳴らすようになりました。（写真③）

今では、暖利用者で結成するバンドの一員として、美しい音色を奏でています。



写真③　Ａさんがウインドチャイムを鳴らす様子

② 音楽に興味のなかったＢさんの場合

Ｂ さん（写真④）は手や腕を自発的に動かし、ビーズの入ったペットボトルを持ったり握ったりして楽しむことが好きです。しかしリズム活動にはあまり興味がありませんでした。

写真④　Ｂさん車椅子乗車姿勢

＜楽器選び＞

Ｂ さんはものを握ることができるので、バチを握って太鼓を叩くことに挑戦しました。太鼓は、どこに当たっても音が鳴らせるように打面の広い和太鼓にしました。

＜繰り返すことでの変化＞

まずは太鼓のバチにＢさんの好きなカラフルな模様をつけました。そうするとＢさんはバチを目で追い、自ら手を伸ばして握るようになりました。バチの模様に興味を持って触っていると、バチを太鼓の上に落としたときに音が鳴ることに気が付きました。こうした経験を繰り返すうちに、自身の動作で音が鳴ることに面白さを感じ、自ら手首を動かして太鼓を鳴らすようになりました。（写真⑤）

今では、バチを握ると太鼓に夢中です！

写真⑤　Ｂさんが太鼓をたたく様子

まとめ

リズム活動の楽しみ方は十人十色です。

太鼓の演奏方法一つでも、Ｂさんのようにバチを使って音を鳴らす方もいれば、足を動かすのが得意な方は足で太鼓を蹴って、耳が聴こえない方は太鼓の革を手で触って響きを感じ、楽しんでいます。（写真⑥）重症心身障がいの方々も、このように様々な方法で音楽に触れ、豊かに自己表現しています。

利用者の自己表現を引き出すためにも、楽しいリズム活動を継続していきたいと思います。

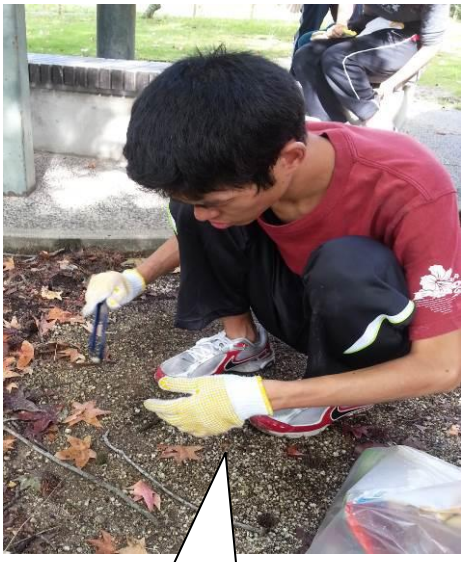
写真⑥　利用者独自の方法で太鼓を楽しむ様子

環　境　美　化　活　動

街をキレイにしよう!

第二ひまわりでは、月に一度、環境美化活動を行っています。自分たちが昼間過ごしている平芝地区を綺麗にしたい、地域の方や自分たちも住みやすい街にしたい、という思いからこの活動が始まりました。ゴミ拾いの得意な利用者が特技を活かすことができるという点でも充実した活動のひとつになっています。第二ひまわり開所当初から行っており、30 年以上続いている活動です。

清掃活動が得意な利用者が第二ひまわり周辺のゴミを拾っています。
職員２名、利用者５名でゴミ拾いをしています。



平芝公園内の清掃も行っているよ。休憩所や、梅の木の周りのゴミも拾います！

タバコの吸殻、お菓子の袋、缶やペットボトル等落ちているものは見逃しません！

周辺住民の声

利用者の気持ち

雨が降った日には…

雨の日には、自分たちが過ごしている施設の中を利用者自ら清掃をしています。

一人ひとりが雑巾を持ち、施設全体のガラス戸を一枚一枚曇りがないよう丁寧に磨いています。

終わった後には職員に「ありがとう！」「ピカピカになったね。」と言ってもらい、満足そうな表情を見せてくれます。

雨の日の施設内清掃活動の様子

環境美化活動の効果

利用者が外の清掃活動を行っていると、地域住民の方からよく声をかけられます。「暑い中ご苦労様」「がんばってね」と言ってもらえると、利用者の皆さんはやりがいを感じることができます。雨の日にも施設内を清掃し、職員に「ありがとうね」と褒められ、その中で喜びを味わい、「もっと褒めてもらえるように頑張ろう！」という気持ちを生み、利用者の生きがいになります。

環境美化という一つの活動を通して地域の方々に第二ひまわりのことを知っていただくよいきっかけとなり、何度も顔を合わせるうちに「いつもありがとう」と声をかけてくれる顔見知りの方が増えています。今後も地域住民の方との交流を増やし、地域との結び付きを図りながら平芝地区を綺麗にしていきます。

障がい者福祉従事者研修

障がい者福祉従事者研修は、豊田市内にある就労系の事業所や日中活動サービス事業所などの職員を対象に行う、対人援助を学ぶための研修です。

年１回、障がい者就労･生活支援センター主催で大学教授などを講師にお招きし、グループワークなどの実践的な内容の研修を行っています。

障がい者福祉従事者研修の様子

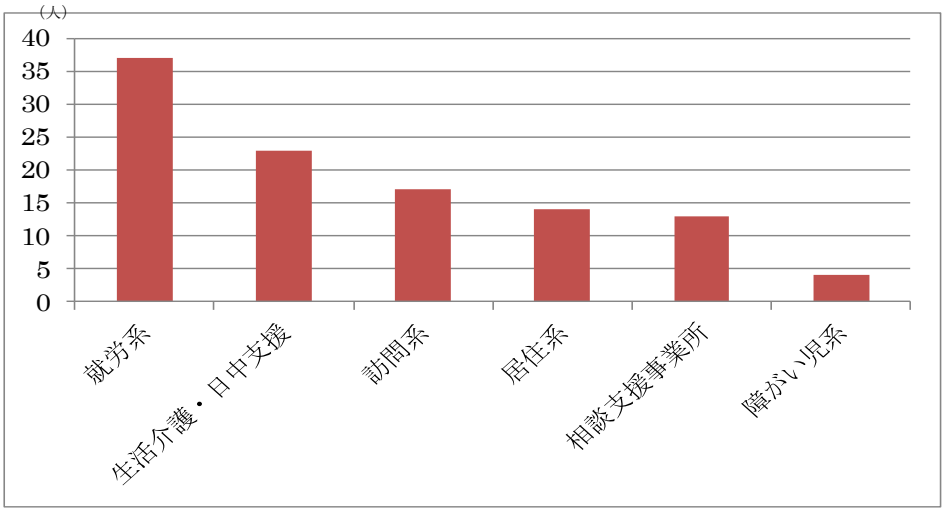
対人援助をテーマに、講師の方に話をしていただきます。
ロールプレイなど趣向を凝らした内容の研修を行います。

年度	テーマ	講師
平成２２年度	考え方の引き出しを増やすケース検討の持ち方	金城学院大学　現代文化学部 コミュニティ福祉学科 教授　浅野　正嗣　氏
平成２３年度	コミュニケーションの基礎 ～バイスティックの７原則をふりかえりながら～	中京大学　現代社会学部 社会福祉実習担当　小川　みのり　氏
平成２４年度	対人援助の基本姿勢 ～聴くことの大切さ～	日本福祉大学　中央福祉専門学校 校長　長岩　嘉文　氏
平成２５年度	人が人を支えるために必要なこと	社会福祉法人　あさみどりの会 丹下　靖　氏
平成２６年度	個人を尊重する相談とは	日本福祉大学　健康科学部 准教授　水谷　なおみ　氏

過去５年間の研修テーマと講師

＜参加者の内訳＞

障がい者福祉従事者研修は、毎年２０～３０名の方が参加しています。就労系の施設をはじめ、日中支援や障がい児施設の職員など、業種を問わず様々な施設の職員が参加されています。



過去５年の参加者の業種の内訳

＜参加者の感想＞

- ロールプレイ等の体験をすることで初めて自分の課題が分かった。
- 言葉だけを聞くのではなく、その方の気持ちを感じることが大切だと思いました。
- 自分のコミュニケーション力のなさにショックを受けたが、簡潔に伝える技術を学べた。相手を大切に思うことが重要だと改めて感じた。
- 相手にどうメッセージが伝わったか、確認することの大切さが良く理解できた。
- ロールプレイをすることで相談者の立場を体験でき、良かったです。
- 様々な業種の方が参加するため、いろいろな視点での意見交換ができ、良い刺激になった。

今後も福祉に携わる職員の技術向上を目指し、様々な研修やセミナー等を企画していきたいと考えています。